



TSUNAGU

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和6年11月8日

我孫子市小中一貫教育だより

第349号



我孫子市マスコットキャラクター  
「手賀沼のうなぎさん」

### 我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にしている子ども



布佐地区キャラクター  
「ふさだ だしお」

## Abi-小中一貫教育 共有授業実践の様子を紹介するうな～！

### Abi-ふるさと「気象学の父・岡田武松」

布佐小学校の6年生でAbi-ふるさと「岡田武松」の授業が行われました。布佐中学校区では、布佐カリキュラムのなかで布佐出身の岡田武松についても特に重要な先人の一人として学習しているため、子ども達はすぐに「天気の人だ！」と、声を上げていました。

本時は、ふさの風まちづくり協議会・岡田博士研究部の前田さん、松島さんをお招きし、岡田武松の功績や布佐との関わり、生涯について詳しく教えていただきます。

気象学を志した理由について、「幼いころに布佐で経験した水害」がきっかけになっていること、天気予報が正確にできるようになることで、「海難事故をなくすため」「戦争で有利になるため」だけでなく、農業など様々な産業の発展にもつながっていることを知り、「私達の生活にも関係のあることを研究したんだ」と、理解を深めました。岡田武松の家が布佐に寄贈され、現在の「近隣センターふさの風」になっていることから、岡田武松の功績を布佐の人々も大切にしていることがわかりました。晩年は、子どもたちのために岡田文庫をつくるなど、教育にも熱心であった岡田武松。

「先輩にすごい人がいてびっくりした」「気象の研究だけでなく、布佐のことを思って行動してくれていて素晴らしい人だと感じた」と、授業をふり返る子どもたちの目は輝いていました。



### Abi-ふるさと「わたしの町はっけん」

新木小学校の2年生でAbi-ふるさとの授業が行われました。町探検を通して見つけた、新木地区のよさに気がつき、それを色々な人に紹介することを単元のゴールに定めています。

本時は、町探検で様々な人にインタビューして見つけた「すてき」を振り返り、発表の仕方を考えることが目的です。学習課題「町のすてきをはっぴょうするじゅんびをしよう」が先生から提示され、グループごとにインタビューで見つけた「すてき」を確認しました。

発表内容を絞るのが大変そうなので多くの意見が出ました。次に、発表方法の相談をしました。「タブレットで写真を見せながら説明する」「クイズにして、みんなにも考えてもらいながら聞いてもらう」「インタビューしたことを劇にして、わかりやすく伝える」など、たくさんのアイデアが出されました。

郵便局の人、警察官、お店の人などに聞いた内容から、「すてき」だと感じたことを発表できるよう、次の時間から準備していくそうです。クラスの仲間や学年の仲間、先生方、保護者にも伝えたいという思いを子どもたちが持っており、どんな発表になるのか楽しみです。

地域のことを知るだけでなく、伝えるを通して、さらに地域のよさに気づき、ふるさとを大切しようとする心が育つ「すてき」な授業でした。

